

第4版あとがき

読者の皆さんのお蔭で、本書も第4版を出版できる運びとなりました。思えば、本書の初版が発刊されたのが一〇年前であり、第3版から四年が経過したことになります。本書では、この間に生じた社会保障制度の改革をできるだけフォローしたつもりです。本書はソフトな語り口のなかで、社会保障法が置かれている「現実」を提示し、読者の皆さんとともに、その将来像を少しでも提示できるように、執筆者は苦勞してきましたつもりですが、その成否は、読者の皆さんに判断していただきたいと思えます。

ところで、IIの冒頭の川畑先生と愛さんとの会話にあつたように、最近、「ベシックスインカム」という言葉が言われることが多くなりました。これは、社会保険の給付の代わりに、ひとりひとりに現金給付をするということです。このような制度は、まだまだ非現実的な話ですが、その賛否を含めて、二一世紀の社会保障制度がどのようなべきかという論点に、新しい視点を提示するものではないかと考えられます。

少子高齢化および核家族化は、将来の日本において避けて通れない現象です。このため、男女が安心して子どもを産み、養育できるような社会制度を維持・発展させることが緊急の課題となっております。子ども手当は、そのための一つの政策ですが、これも社会保障制度全体の枠組みのなかで検討されるべきものでしょう。

ともかく、社会保障の将来像を決定するのは、読者の皆さんです。本書が、その羅針盤となることができるとすれば、執筆者一同にとつて、これに勝る喜びはありません。

最後に、困難な出版事情のなか、本書を発行いただいた法律文化社代表取締役田藤純子氏、粘り強い編集作業で執筆者を支えていただいた同社編集部長小西英央氏、そして本書に相応しい装丁や表紙のイラストを描いていただいたデザイナー松原真理さんに対し、執筆者を代表して、あらためて謝辞を進呈いたします。

二〇一五年三月一五日